

市民活動団体 応援コーナー

このコーナーは、毎月1日号で、市内で活動する皆さんの主催するイベントや会員募集を紹介するものです。

掲載申込みの詳細は、市ホームページをご覧ください。

☎広報情報課 ☎983・2620

三島市 市民活動団体応援 検索

10月1日号への掲載の申込みは、8月24日(水)までに、
広報情報課
✉kouhou@city.mishima.shizuoka.jp、FAX 983・2719

| 広報みしま | 締切日 |
|-----------|-----------|
| 11月1日号 | 9月22日(水) |
| 12月1日号 | 10月25日(水) |
| 令和5年1月1日号 | 11月10日(水) |



市民活動団体
応援コーナー詳細

文化

第12回 弦楽合奏による ファミリーコンサート

☎8月28日(水)午後3時～4時 場生涯学習センター3階・講義室 ☎23人の弦楽合奏 ▶ 曲目：時代、さくら、アニーローリー、アイネクライネ、アイーダ、私を泣かせてください
☎無料 ☎125人 ※幼児可 ☎熊谷 ☎919・4754

フォトクローバー写真展

☎9月14日(水)～18日(日)午前9時～午後5時 (14日(水)は午後1時から、18日(日)は午後4時まで) 場三嶋大社宝物館ギャラリー (大宮町2・1・5) ☎会員の写真作品展示 ☎無料 ☎宮澤 ☎971・7629

三島グロリア合唱団 第39回定期演奏会

☎10月23日(日) ▶ 開場：午後1時 ▶ 開演：2時 場市民文化会館・大ホール ☎ ▶ 曲目：モーツァルト「レクイエム」、フォーレ「レクイエム」 ▶ 出演：八尋和美さん(指揮)、東京バツハ・カンタータアンサンブル(オーケストラ)、ソリストは県内若手 ☎一般3,000円、学生1,500円 ※チケットはやまがた楽器店、文盛堂書店などで販売 ☎土山 ☎972・2291

スポーツ・健康

はじめてのバレエ体験 ワークショップ

☎8月21日(日) ①正午～午後0時40分 ②午後1時～1時45分 場キングダムバレエスタジオ (大社町8・37) ☎バレエのストレッチからバーレッスンなど楽しく体験 ☎無料 ☎①小学1、2年生 ②小学3～6年生 ☎①10人 ②15人 ☎動きやすい服装 ☎☎8月14日(日)までにキングダムバレエアカデミー ☎090・5432・5257

三島市ソフトテニス協会 秋季ソフトテニス教室

☎8月31日～11月16日 (毎週水曜日) 午後6時30分～8時30分 場市民体育館・文教コート ☎4,000円 (10回分) ☎小学生以上 ☎ソフトテニスラケット、運動靴 ☎8月31日(日)午後6時よりコート入口で受付 ☎大庭 ☎080・2615・6911

その他

障がい児成長支援協会講演会

☎8月11日(木・祝) ①▶ 受付：午前9時 ▶ 開演：10時 ②▶ 受付：午後1時 ▶ 開演：1時30分 場長泉文化センター・大ホール (長泉町下土狩821・1) ☎無料 ☎①障害児成長支援協会会長山中康彦先生による、特別支援が必要な子の進路就労の話 ②金澤泰子・翔子氏講演会「ダウン症の子供を育てて学んだこと～天使がこの世に降り立てば～」 ☎多家 ☎900・9010

新型コロナウイルス感染症の拡大防止を図るため、掲載した事業を中止・延期または内容変更する場合があります。

第21回 平和のための戦争展

☎①8月19日(金)午後1時～7時 ②20日(土)、21日(日)、23日(水)午前9時～午後7時 ③24日(木)午前9時～午後5時 場生涯学習センター3階・市民ギャラリー ☎「戦争遺品」「原爆写真」「三島にも戦争があった」「今こそ核兵器禁止条約の出番」「満州事変とウクライナ侵略」「中村哲写真展」「本土復帰50年、辺野古の今」「福島原発」など ☎無料 ☎反核市民の会・加藤 ☎986・3180

子ども向けワークショップ 「チャンカケよアートでよみがえれ！」

☎9月17日(土)午前10時～午後2時30分 場エコセンター ☎川で拾ったチャンカケで自由を作って遊ぼう ☎1,000円 (材料費込み) ☎小学生 ☎15人 ☎弁当、水筒、着替え、マリンシューズほか ☎☎ラボキュリオ ☎qrioart15@gmail.com ☎090・6560・5681

求職者職業訓練「医療事務スタッフ養成科(短時間)」受講生募集

☎9月21日(水)～12月20日(水)各午前9時30分～午後3時 場ニチイ学館沼津校 (沼津市大手町3・8・23) ☎医療機関において医療事務業務における基本作業を学ぶ ☎無料 (別途教科書代など) ☎ハローワークで積極的に求職活動している失業中の入 ☎14人 ※選考あり ☎8月26日(金)までに住所管轄のハローワーク ☎ニチイ学館沼津校 ☎0120・781・023

歴々の小箱

No.410

江戸時代のすゝく
道中双六

郷土資料館では、企画展「このへん道中いまむかし 富士・沼津・三島の観光」を
開催予定！（10月2日まで）

郷土資料館（楽寿園内） ☎ 971・8228

今回は、開催中の企画展「このへん道中いまむかし 富士・沼津・三島の観光」の展示資料の中から、東海道の道中双六について紹介します。

すごろくといえば、振り出しからサイコロの目に従ってマス目を進み、途中の苦難（振り出しに戻されるなど）を乗り越え、上がりを目指す、そんなシンプルなゲームです。

性別や年齢を問わず、みんなで一緒に楽しめる遊びであり、家族や友達と遊んだことがある人も多いのではないのでしょうか。そんな身近な遊び道具である絵入りのすごろく「絵双六」は、江戸時代にも庶民の遊び道具として存在していました。

当時の各地への旅行を主題とした「道中双六」は、江戸時代後期に盛んに出版されるようになりました。

江戸幕府によって街道が整備されると宿場や沿道は往来する人々にぎわい、多くの旅人が全国各地を巡るようになりました。

そうした旅の盛り上がりは、庶民の間でも広がりました。旅が身近なものとなった時代背景も相まって、紙上で手軽に旅の楽しみが味わえる遊びとして道中双六が人気を集めました。

今回紹介する「東海道五十三駅 道中記細見双六」はそのような道中双六のひとつで、京都の浮世絵師・梅川東拳（画号 好美斎）が描いたものです。

道中双六には様々な街道を取り上げたものがありますが、そ



▲東海道五十三駅 道中記細見双六

の中でも東海道を描いたもの大きな割合を占めていました。この双六は、「振り出し」の江戸の日本橋を出発し、東海道の宿場をまわって京都の三条大橋と御所の「上がり」を目指す仕組みとなっています。

内容を見てみると、箱根の関所では関所手形を忘れ振り出しに戻るなど、実際の旅の様子がルールとして採用されています。また、宿場間の距離や、吉原宿（富士市）の「名所ひだりふじ」、府中宿（静岡市）の「名物あべ川もち」といった各地の名所・名物も記載されています。

本資料は表題の「道中記」（当時の旅行案内書）という言葉が示すとおり、ちよつとした旅行ガイドのような性格を持つていたようです。

本資料は表題の「道中記」（当時の旅行案内書）という言葉が示すとおり、ちよつとした旅行ガイドのような性格を持つていたようです。



▲マス目として登場する三島宿新町橋付近を描く

わたしの
おじいちゃんおばあちゃん

当番 いまい あこさん

私のおじいちゃんとおばあちゃんは、家族思いで、とても元気です。私がボケたら、つっこんでくることが日常茶飯事です。笑いの絶えない家族にしようという気持ちがとても素敵だなと思います。

私の家は農家です。とても体力を使う仕事ですが、みんな毎日元気に仕事をしています。作った野菜を喜んで食べてくれる人たちのために働く姿は、かっこいいです。

私は、みんなに喜びを届けるおじいちゃんとおばあちゃんと生活ができることが幸せです。



今井 寿 (64歳) ミドリ (67歳)
今井 あこ (坂小 6年)